

「ペテロの伝道」

1. はじめに

- ・ペテロの伝道です。コルネリウスという人がカイサリヤにいた。彼はイタリア隊の百人隊長であった。
- ・コルネリウスの聞く者としての真剣さ、ペテロの語る者としての真剣さを感じて欲しい。
- ・コルネリウスはどのような主の用意があったのか。ペテロにはどのような主の準備があったのか。
- *コルネリウスは幻を見た。そしてヤッファに人を遣わして、ペテロを招きなさい。一方ペテロも幻を見た。そして三人の使いの者が来たとき、聖霊は「行きなさい。」と促した。
- *今日はペテロのメッセージです。彼は何を語ったのか。

2. 本文

1 : 34、35節「～私ははっきり分かりました。どこの国の人であっても、神を恐れ、正義を行は、神に受け入れられます。」

*ペテロはイエスが主であることは分かりましたが、信仰は、まだまだユダヤ教信仰の理解でした。

2 : 36節「神は～イエス・キリストによって平和の福音を宣べ伝えられました。このイエス・キリストはすべての人の主です。」

*「平和の福音」という言葉を聖書から見たい。イエス、ペテロ、パウロが「平和」シャロームを語るときどのような広がりをもつのか。

3 : 37、38節「あなたがたは、ガリラヤから始まって、ユダヤ全土に起こった事柄をご存じです。それは、ナザレのイエスのことです。」

4 : 39節「私たちは、すべてのことの証人です。」

5 : 39～41節：人々はこの方を木にかけて殺しましたが、神は三日目によみがえらせ、現れさせてくださいました。このことは、民全体にではなく、神によって選ばれた私たちに現れたのです。そして一緒に食べたり飲んだりしました。

*3) 4) 5)「私たちは、すべてのことの証人です。」

6 : 42～43節：イエスはさばき主として神が定めた方であることを、人々に宣べ伝え、証しするように命じられました。預言者たちも、この方を信じる者はみな罪の赦しが受けられると証ししています。

3. まとめ

*44～46節：「みことばを聞いていたすべての人々に、聖霊が下った。割礼を受けている信者が異邦人にも聖霊が下ったことに驚いた。彼らが異言を語り、神を賛美するのを聞いたからである。」

*「平和」は聖書のなかで重要な位置を占めています。福音の理解に欠くことのできない基本的なものです。聖書によれば、神は「平和の神」であり、イエスは「平和の主」であり、(預言者は平和の君と呼びました)聖霊は「平和の霊」です。神の国は「聖霊による義と平和と喜び」です。—「教会 イエスの共同体」

*今日の話はパウロの回心と、それにつづく、パウロの幻、アナニアの出会い、バルナバの働きを思い出します。

・主が伝道のために用意されたことは、人の真剣さと主の用意・対応である。ルカが記しているのは現代の私たちが思う①自分のまたは人の意志によって計画し、②実行し、③反省する④その上に立って次をいくでもない。伝道は主イエスを求めることと、その応答としての助け主です。